第 37 回日本肝胆膵外科学会学術集会　NGP 活動報告④
Special Program 5
Japan-Korea Rising Star Session
司会：Jeong-Ik Park 先生（Ulsan University Hospital），原 貴信（国立病院機構長崎医療センター：NGP-WG メンバー）
演者：① 楊 知明 先生（京都大学）② 赤星 径一 先生（東京科学大学）③ Seok-Hwan Kim 先生（ChungNam National University Hospital）、④ Boram Lee 先生（Seoul National University Bundang Hospital）

Special Program 5「Japan-Korea Rising Star Session」にて、韓国の肝胆膵外科学会で Education Board の Director を務められている Jeong-Ik Park 先生（Ulsan University Hospital）とともに司会を務めさせていただきました。日本、韓国より 2 名の先生方にご登壇いただき、これまでのキャリアおよび後進の指導という観点でご発表いただきました。このプログラムのテーマについては NGP メンバーで検討し、顧問である長崎大学の江口 晋先生にご承認いただいて決定しました。

京都大学の楊先生からは良いクリニカルクエッションをもとに paper を書き、研究費を獲得してさらにリサーチを行い、それを paper として出すサイクルを確立することの重要性、リサーチグループのリーダーとして後輩の指導の際に考えていることについてお話しいただきました。東京科学大学の赤星先生からは、デジタルツールを用いた医学生や若手外科医への教育、治療が多様化する中での多職種参加型アプローチの重要性についてお話しいただきました。海外での医療活動や基礎研究の経験が豊富な Kim 先生からは、次世代の研究者を育てるため、様々な施設と連携しながら医学部の一つのカリキュラムとして研究者育成プログラムを設立する取り組みについてのお話がありました。また、Lee 先生からは豊富な低侵襲手術の経験をもとに、どのようにロボット手術を次世代に教育していくかという視点でご発表いただきました。

最後に江口先生より closing remark として、“皆さんは Next Generation であると同時に、Next-next Generation をリードしないと行けない立場にある。学術集会が英語化になったときはどうなることかと不安だったが、セッションを見る限り英語で問題なくコミュニケーションが取れているので、これからも両国で協力しながら取り組んでいってほしい”とのエールを頂きました。

３月の韓国での HBP Surgery Week に引き続いて英語での司会という非常に貴重な経験をさせていただきました。このような機会を与えていただきました会長の調 憲先生に心より御礼申し上げます。

（文責：原 貴信）